

福岡・豊前国府跡



(行 橋)

所在地 福岡県京都郡豊津町
調査期間 一九八四年（昭59）一〇月～一月
発掘機関 豊津町教育委員会
調査担当者 酒井仁夫・石松好雄
遺跡の種類 国府跡
遺跡の年代 八世紀～一二世紀
遺跡及び木簡出土遺構の概要

遺跡は京都平野を貫流する今川と祓川に挟まれた沖積地に位置している。当該地には惣社八幡宮が存することや国作などの地名、さ

らには遺跡の南方約七〇〇mの所には豊前国分寺があり、豊前国府推定地としては最有力地とされてきた。周辺からは、これまでにも奈良時代の軒瓦や九〇世紀代の土器類などが採集されている。この国府推定

には場整備事業が計画されたため、豊津町教育委員会が昭和五九年度を初年度として三年計画で発掘調査を開始した。調査の結果、平安時代の掘立柱建物、溝、井戸などが検出された。また遺物としては八世紀前半代の鴻臚館式軒平瓦や硯、奈良時代から平安時代にかけての須恵器、土師器、白磁などが出土した。木簡は一二世紀後半頃と推定される井戸から出土した。

8 木簡の釈文・内容

(1) 「フ(符籙)急々如律令」

170×47×4 032

頂部よりやや下位の両側に「フ」字形の切込みを入れ、片面に呪符を墨書しているが、どのような占事を意図したものか不明である。遺跡が地理的に求菩提山とは近距離にあることから、それとの関係も考えられる。

豊津町教育委員会『豊前国府』（一九八五年）

（石松好雄）

